

健康メモ

求道性

広島市民病院外科主任部長 二宮 基樹

日本人はつくづく求道的な民族だと思えます。お茶を飲むことは茶道に、花を觀賞すること



は華道に、字を書くことは書道に、人を投げ飛ばすことは柔道に、殴り蹴ることは空手道に、棒を持って打つことは剣道に、そしてハガキをしたためることで精神性を磨く「ハガキ道」を提唱する人もいます。身のまわりにある、ありとあらゆるものが精神性を伴う崇高な芸術へと昇華され、ひとはそれを極めるべく「道」に入っていきます。ひとつの道を通して精神を磨き人間としての完成形を目指そうとする価値観が我々

日本人には脈々と流れています。時には本質から離れて形式や作法あるいは精神性に重きが置かれることもしばしばです。道を極めようとする過程で自分を磨き人間性を高めていこうとする、どの民族にも類を見ないこの求道性とは一体どこから来たのでしょうか。そして、この求道性こそが資源のない狭い我が国を世界有数の技術立国に、あるいは経済大国に押し上げた源だと思えます。

他方、日本人の創造性には素晴らしいものがあります。わかりやすい例を挙げればアニメであり漫画です。この領域ほど日本人の創造性や豊かな感性を表現しているものはありません。そして、両者は産業として世界中に輸出され多くの若者の心をとらえ、ものの考え方や価値観、そして文化に大きな影響を与え続けています。

さて、その求道性と創造性が合わさって世界をリードしている領域のひとつが医療の分野です。いまや日本の医療は多くの分野で世界の最高峰にあります。私の専門とする胃癌の分野もそのひとつです。いまや日本の胃癌のレントゲンおよび内視鏡の診

断学、特に後者は芸術的なところまで昇華し他国の追隨を許しません。そして、その完成形が内視鏡で早期胃癌を切り取ってしまうESD(内視鏡下胃粘膜下層剥離術)という手技です。

外科医も負けてはいません。日本の胃癌外科医の手術は群を抜いて世界一であり、最近では王監督の手術で有名になった腹腔鏡手術の進歩は眼を見張るものがあります。きめ細かい手術手技は年を追うごとに完成度を高め、いまや世界を驚かせる水準にあります。求道性と創造性、我々日本人は古より素晴らしい形質を受け継いでいる民族だと思えます。

私自身も、工夫を凝らし同じ手術は二度としない覚悟でいます。そして、無駄を一切省いた効率良く美しい手術を常に目指しています。人間性を磨かなければ、それ以上の技術の向上が望めないことも思い知っています。私にも日本人の血が脈々と流れているようです。

